

## 令和5年度岡山・鳥取両県知事会議 議事録

日時：令和5年8月9日（水）13:45～15:00

場所：湯郷グランドホテル（岡山県美作市）

### <開会>

#### ○笠原岡山県総合政策局長

ただ今から、令和5年度岡山・鳥取両県知事会議を開会いたします。まず初めに、開催県であります岡山県の伊原木知事からご挨拶をお願いいたします。

### <両県知事あいさつ>

#### ○伊原木知事

皆さんこんにちは。岡山県知事の伊原木でございます。平井知事には、ようこそ岡山県にお越しいただきました。もう本当に嬉しくなってしまうほど、侍体験ですとかサイクリングですとか、お忙しいのをわかった上で、いろいろなメニューを詰めさせていただきました。

平井全国知事会会長におかれましては、昨日衝撃の内容が全国ニュースを駆け巡ったわけでございます。2年、全国知事会の会長として、たった10年ちょっとしか全国知事会の運営を知らないわけですが、自分自身の体験でも、また先輩方から教えていただいた昔話を合わせても、こんなに全国知事会が存在感を発揮して、コロナのような国難に対応して地方の声を国に届けて、国から施策が出て、出た後になっていやそれは現場ではもたないって言うのではなくて、現場の方から見ても、実行可能なもしくは現場の懸念を反映した施策方針を、国から出していただくように積極的に関わっていかれた、知事会としても関わっていきまして、会長自らいろいろな委員会等に、本当に積極的に参画をしていただき、積極的に発言をしていただき、これほど知事会が存在感をもって活動したことはなかった。

また、知事会の中がこんなにまとまったことはなかったということで、本当に私自身、全国知事会のほんの一部の仕事を担当させていただきながら、やりがいを持って仕事をさせていただいたことはなかったわけでありまして、大変大局的な見地から、1期2年で会長から引かれる、次の会長選に出馬をされないという表明をされました。驚かなかった知事はいなかったと思います。本当に残念です。

本当にどうしてここまでうまくされている方が引かれるんだという思いでいっぱいでありまして、いろいろなお考えがあつたことということで、今のところ理解しております。

幸い、知事としてはまだたっぷり任期が残っておりますので、私お隣の県として、また、アンテナショップを共同で運営させていただいているということもあって、他の知事の皆さんよりは関わり合いが深い、まだまだずっと教えていただける機会がたくさん残っていると、その点は他の知事よりはちょっと恵まれているのかなと思っています。

本当に私、平井知事と一緒に仕事をさせていただくと勉強することばかりでございまして、おかげさまで、アンテナショップのこともそうですし、何か一緒に、今日もちょっと話題に出てきます婚活支援のことにしても、何かご一緒させていただくと必ずいい結果が出てくる。本当にお仕事しやすい方で

あり、また県であり、そういった県と一緒にアンテナショップを運営させていただいていることを本当に誇りに思っております。

私ばかり喋る場面ではございませんけれども、今日しっかり、両県にとって大事な内容について議論をさせていただくことを楽しみにいたしまして、冒頭のご挨拶とさせていただきます。今日はどうぞよろしく願いいたします。

## ○笠原岡山県総合政策局長

ありがとうございます。では続きまして、鳥取県の平井知事からご挨拶を頂戴したいと思います。

## ○平井知事

皆様こんにちは。本日は伊原木隆太知事、そして岡山県の皆様にこんなに素晴らしい両県知事会を設営していただきまして、本当に感謝を申し上げたいと思います。

また、ただ今大変に身に余るお言葉までいただきまして、正直少し目頭が熱くなるような思いすらしたわけですが、本当に昨日突然でありまして誠に恐縮ではありましたが、知事会長職を引かせていただくということを表明をさせていただいたものであります。

岡山県の皆様にもぜひわかっていただきたいんですけれども、今知事会は伊原木知事を中心に回っています。それはですね、この間山梨大会がありましたけども、そこで初めて日米の知事協議、これをネットで実現することができたわけでありまして。

実は伊原木知事をご当選の直後から、この日米の知事交流に大変にご関心を寄せていただいております。私もお仕事をかつてはさせていただいたものでございます。今回、非常に難しい状況の中で、伊原木知事がアメリカの方に勇躍、まさに素手で殴り込みをかけるかのように、とにかく行って何とか話をしてみようと、しっかり決着をつけてきて、この日米の交流が始まるということになりました。

また今回、山梨大会はこれまでの全国知事会の中でも非常に内容の濃い評価の高いものだったと思いますし、私も、知事会もここまで変わってきたなど、自分ながら実感したものであります。このシナリオを書かれたのが伊原木知事であります。全体の構成をまとめる、そういう特別委員会、これを主催されまして、各知事と様々なとりまとめもされて、事務局も大変だったと思いますが、本当にいい知事会ができたわけでした。感謝申し上げます。

伊原木知事のような方がいらっしゃる多土済済の知事会であります。結局全員野球でなければいけないと思っています。47人の知事がそれぞれの能力と、それから住民の皆様との絆を発揮することで、この国がときに頼りない時がある、その中で今私達は危機の中を、荒波を越えていかなければならないわけでありまして、政府以外のもう一つの主導軸というのを都道府県知事がみんなで作っていくべきではないだろうか。その能力と資格は伊原木知事をはじめとして、多くの知事が担っておられると思います。それを各地域で見つめておられると思います。そんな意味で、私はあえてバトンを繋いでいくことで、これから末永く、そうした知事会の発展が、この国の一つの財産になるのではないかとこのように感じました。

私はちょっと確かに変わり者で、伊原木知事がおっしゃいましたが、出れば当選するなら出たらいいじゃないかという、それが普通の政治の論理かもしれませんが、私は自分自身というよりは、その後の、実際にこの国や地方自治がどうなるかを考えるべき「道具」として自分は判断しなきゃいけないと

考えておりました。そんな意味で皆さんの常識と若干違う道を昨日走ってしまったものですから、混乱させたことを心からお詫び申し上げたいと思いますし、ただ今いただいたお言葉そのものを伊原木知事にもお返し申し上げて、深く感謝を申し上げたいと思います。

ぜひこれから知事会を伊原木知事にも引っ張っていただき、先頭に立っていただければと、この隣県としてですね、お慕い申し上げている者として、お願いを申し上げたいと思います。

今日この湯郷グランドホテルに参りました。女将さんとかこのホテルの皆さんに出迎えていただきました。実は私、白状しますと2回目でございます、もう昭和60年頃だと思いますが、兵庫県に務めていたときに職場旅行で湯郷グランドホテルに泊まって、いわば乱痴気騒ぎのようなことをやったというのが実情でございます。証拠写真も何もないと思いますから、別に何も臆することはないんですけども、懐かしいこのホテルにまた帰ってくるのができて、さっきからこの景色を眺めてですね、少しずつ思い出を取り戻しているようなところでございます。

今日この会場も五輪という部屋の名前でございますが、今日は宮本武蔵、大原の武蔵にちなんで、剣法、剣でですね、真剣で侍を演ずる、そういう大変に外国人に人気のイベントを体験させていただきました。

「身を浅く思ひ、世を深く思ふ」、五輪書にも表されている宮本武蔵の言葉は、私達地方自治の最前線の者が胸に刻まなければいけないことだと思います。

昨日は私も一歩別の道へ踏み出した感がございますが、「我事において後悔をせず」、武蔵の言葉に従いまして、これからまた歩んで参りたいと思いますので、どうか伊原木知事にもご指導いただきたいというふうに思います。本当に今日はありがとうございました。

## ○笠原岡山県総合政策局長

ありがとうございました。それでは少し事務連絡でございます。本日の会議は14時45分ごろまでを予定しております。その後、両県知事による記者会見を予定しておりますのでよろしくお願いたします。意見交換に入る前に、ただ今お配りしております両知事のお手元のお飲み物を少しご紹介させていただきます。

この飲み物は岡山県産の清水白桃を使用したジュース「岡山果汁物語」でございます。完熟した白桃の香りや優しい甘さが楽しめますので、ぜひお召し上がりをお願いします。

それでは、早速でございますけれどもこれより意見交換に入らせていただきます。これ以降の進行につきましては伊原木知事にお願いたします。よろしくお願いたします。

## ○伊原木知事

はい、どうもありがとうございます。いや、本当に平井知事おっしゃられたように「身を浅く思う」、まさに昨日それを実践される大きな一歩を踏み出されたわけでございます。宮本武蔵も今頃、五輪書を読んでいる人は多いけれども、なかなか意味を理解して実践している人は少ないんだよなということで、平井知事のことを大歓迎されていることと思います。先程の侍体験で剣を振っても、ちゃんとすごい音が出ておまして、手さばきもさすがだと思いました。

## <意見交換>

### 【人口減少に直面する両県の連携（少子化対策）】

では早速、人口減少について私の方から発言をさせていただきます。

昨年の我が国の出生数、過去最少の77万人、合計特殊出生率も1.26で過去最低となるなど、厳しさが一層増しております。

本県においても、出生数、合計特殊出生率ともに前年を下回る結果となったところでございます。コロナの影響による出会いの減少、産み控えといった要因もあるんでしょうけれども、改めて強い危機感を覚えております。本県ではこれまでも出会いから結婚、妊娠・出産、子育てまでライフステージに応じた施策を切れ目なく展開しており、今年度はこれまで以上に重点的に取り組んでいくとの決意のもと、ステージごとに新たな取組も加えるなど、積極的な施策展開を図っているところでございます。

このうち結婚支援については、先月22日に、両県合同による婚活イベントを後楽園において開催させていただきました。昨年度の両県知事会議での合意によってこの度の取組が実現したということで、本当にありがとうございました。

まず応募がすごかったと、雰囲気も良かったと、投扇興などのゲームでもものすごく盛り上がり、結果も良かったと、6組カップルになったということ聞いております。ぜひこういっことは継続していきたいなと思っております。

本県の施策に関しましては、結婚支援システム「おかやま縁むすびネット」の登録無料キャンペーンを4月から展開しておりまして、ザクッと今応募者数が倍になっております。引き続き会員数の増強を図り、婚姻数の増加に繋げてまいりたいと思っております。

また、より効果的な施策の推進に向けては、特に市町村や企業と連携しなければいけないと考えています。市町村との連携については、新たな少子化対策にチャレンジする市町村を2年にはわたって伴走支援する事業をスタートしたところでございます。いろいろ詳しく書いてありますが、とにかく市町村と一緒にやっていく。

あともう一つ企業との連携、これは県内で働いている方、特に若い方っていうのは、役所で働いている方もいらっしゃるんでしょうけれども、大半はどこかの企業で働いているわけでありまして、企業におけるこの子育てのしやすさを改善しなければ、結局は成果が出ないということで、従業員30人以上の県内企業、膨大な数があるわけですけども、を対象に、子育て支援に対する意識、具体的な子育て支援の実施状況等について調査を行っておりまして、今取りまとめを進めています。調査結果を踏まえて、企業と連携した新たな子育て支援策の検討・実施に繋げてまいりたいと考えております。

他にもいろいろな立場のご意見をお伺いする中で、我々とすれば、できることはもう全てやろうと、これまでちょっと踏み込めなかったところも含めて全部やっというところ、張り切っているところでございますが、長々申し上げましたが、我々、実績を出せていない県の意気込みを話させていただきましたが、こちらにいらっしゃる鳥取県、前年に比べて合計特殊出生率が上昇した、日本でも数少ない県の一つでありまして、ぜひ今日は平井知事のこれまでの少子化対策の取組について、改めてお話をお伺いしたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

## ○平井知事

ありがとうございます。伊原木知事が最後におっしゃった合計特殊出生率、確か岡山と鳥取が全国で延ばした、違うんですかね、大変失礼しました。

先般、岸田総理が奈義の方にお越しになられまして、やはりあれが日本のモデルだということを高らかに宣言したのが、こども家庭庁を作る前のことでありました。先般同じ岸田総理、実は鳥取の方にも来られまして、ミライトという施設をご覧いただいたわけであります。

やはり東京とか大阪から見ると、岡山や鳥取というのは子育てに適したところであって、それこそ奈義のようにですね、地域で見守るネットワークがあったり、それから子供たちを預けることが簡単にできたり、それから働くところも上手に斡旋をしたり、そういうモデルが多分この地域にはあると思うんですね。

ですから、ぜひこちらこそですね、岡山のいろいろなお知恵を、民間企業の問題あるいは地域の取組なども共有させていただいて、ぜひ岡山鳥取両県で子育ての先進地域をゾーンとして作っていただければと思います。これが多分移住・定住にも繋がってくると思うんですね。移住・定住先にもなりうるような試みをですね、ぜひ一緒にさせていただければと思います。

今日は本当にこの素晴らしい岡山で、ここ（ポスター）にありますように、「こころハレいろ岡山」を満喫させていただきましたが、ご紹介いただいたこの白桃のジュース、確かにネクター以上に丸ごと甘い白桃がずっとのどごし入ってきまして、素晴らしいものだなというふうに思いました。

岡山は「白桃」でございますが、鳥取は「白兔（はくと）」でございます。「しろうさぎ」と書いて「白兔」と。だから我々は白兔の方が実は馴染みがありまして、一字違いであります、仲間だと思っただきまして、そんな意味で同じ白い兔と桃を繋ぎ合わせて、今日は本当にいい体験をさせていただいたと思います。

今お話いただいた件でありますけれども、我々、いろいろと試しながら子育て施策をやってきました。今回岸田総理にも申し上げたんですけれども、44名対前年で出生数が増えた、それから1.602、実は急上昇した合計特殊出生率です。岡山と違って統計のぶれが出やすいので、その辺は割り引いて考えなければいけません、分析をしてみますと、今の子育て環境の象徴的な問題点も隠れてるように思っております。

我々が力を入れたのは一つは不妊治療であります。この不妊治療について、国が今保険適用のところに限っているわけではありますが、それ以外のところは全部県で面倒見ますよというような手厚い制度にさせていただいたんですね。今晚婚化が進んでまして、不妊治療のお世話になるカップルがとても多いです。その人たちが悩みながら何とか幸せをつかもうとしているサポートをする。それで実は40代とか、30代後半とか、そういうところの出生数が多いんですね。だからやっぱりやっただけの効果はあるんだと思います。

それから20代30代のところも移住者がここにやってくると、鳥取県のように母数は小さいところは、移住者が実は出産適齢期であって、こちらで子育てをするという目的で来られますと、これで出生数が増えることはもちろん、合計特殊出生率も上がってくるということになります。

だから都会で窮屈な子育てをするよりも、岡山とか鳥取のようなところで幸せを見つけるという、これは時代にかけているのかなというふうに思います。

こんなように、戦略的な子育て政策というのをやっぱりやっていくべきなんではないかなというふうに思っております、政府の方にも一緒にみんなで働きかけていければと思います。

特にイベントとして、婚活がこれからの問題になると思うんですね。今のこども家庭庁でも若干弱いのが、そのカップルの問題だと思っています。先般は岡山の方で、後楽園です、婚活イベントをやったいただきまして本当にありがとうございました。この時に6組成立したということですが、岡山鳥取の掛け合わせで2組、それから岡山県同士で1組、それから鳥取県同士で3組ということでありまして、だからどっちの県でやっても鳥取のカップルもできたということですから、どちらかという旅行気分ですりラックスできるのではないかなと。

テストで花回廊でもやってみただけですが、こういうのをやはりこれからですね、ぜひパターン化していただいて、両県共同でこういう婚活イベントなんかを展開していったり、マッチングのお手伝いをさせていただいたり、これは一つの県境で決まるものではないと思いますので、幸せに県境はないということでぜひご協力をいただければと思います。ありがとうございました。

## 【人口減少に直面する両県の連携（中山間地域の生活環境確保）】

### ○伊原木知事

不妊治療については大変参考になる実績ですので、我々としてもどのような可能性があるのか考えていきたいと思っております。その続き、流れで、中山間問題についてお願いできますでしょうか。

### ○平井知事

人口減少に適合していくような社会作りをしていかなきゃいけない。それが特に中山間地で、象徴的に表れるのだと思います。そういう意味でぜひこれから一緒に知恵を出し合ってですね、協力できる場所もあるように思います。後ほど出てくる交通の問題というのがとても大きな課題として一つありますし、それから買い物支援ですね、これも非常に重要になってきました。

今、この10年間で全国でスーパーマーケットなどが店を閉めるのが2.4倍に増えているといいます。これはやはり中山間地を中心として、そういう店舗型のお店というのがなかなか難しくなると。伊原木知事もこういう小売とか流通の専門家でいらっしゃるから、おそらく一つの何といいますか、経済合理性としてそういうことはあるのかなとは思いますが、ただ、それであればそれに適合した買い物環境というのを、時代の流れの中で我々が作っていかなければいけないんじゃないかなというふうに思います。

一つの例を挙げますと、今鳥取ではJ A系のスーパーが一斉に店舗を閉めるということになってきました。これ実は鳥取県だけでなくよその県でもJ A系スーパーが一斉に閉めるというのが最近顕著に出てきています。

元々農業とそうした生活センター的な、昔は生活センターとか言っていましたが、そういうものとの必然的な結びつきはないんですね。本来農業支援だけやっていたらいいというのがJ Aなので。生活のところはどちらかという、集落対策で少し赤字になっていても頑張って持っていたと。それがもうさすがに持たなくなってきた。これを、経営指導なんかが多分あるんだと思うんですが、全国的に閉める例が頻発しているということでもあります。

店舗で買い物できるような、じゃあその第3セクターでこういうことをやるか、こういう例も鳥取県内でも出てきていますし、それから地域でみんなでボランティア半分で店舗を維持していく、そこにスーパーマーケットの流通のチェーンがありますよね、そのものを入れて品揃えをしていくというような例もあったり、あと最近鳥取県庁では一つびっくりしたニュースがあったんですが、県庁の優秀な幹部が突然辞めちゃう。ご存知ですか。広報課長とか言うと特定されますが、女性の課長がですね、本当に優秀だったんです。いろいろとPRの仕掛けなんかするんですけど、やっぱりさすがお耳が早いですね。

この方は実はある天満屋系のスーパーの「とくし丸」という移動販売、これを自分のライフワークとしてこれからやっていこうと、お父さんとかご家族の方のそうした買い物に困っている状況なんかも見ていて、公務員よりもこちらの方でやっていこうと。それで今お世話になっているということなんですが、そんなように、実は岡山との県境で結び付き合いながら、実はこの買い物支援というのが今さらに動こうとしています。

鳥取県も、岡山系のスーパーが津山とかですね、ございまして、ある意味商圏が重なっているんですよね。みんな中山間地なのでノウハウも共有できるものがあるんじゃないか、それはおっしゃるような「とくし丸」とかですね、そうしたものがあるのだと思います。

ぜひそうした意味でこれからもですね、そういうノウハウの共有とか、場合によっては、協業ということも含めて、今後またご指導いただければなと思います。

## ○伊原木知事

ありがとうございます。私この10年間、古巣の天満屋と天満屋ストアとは基本的にもう情報を共有していないので、あれも地元の新聞で大きく取り上げられて、へえーと言ってびっくりしたんですけど、でもこれも本当に平井会長の昨日のご決断と同じく、普通に考えたら、県庁の課長ってもうここまで偉くなってしかも年齢からするとまだまだこれから幹部としても大活躍できるようなポジションでありながら、いや、でも自分の使命としてこういうことをしようという、もう損得じゃなくって、そういう判断ができる人がいるというのは、私はすごいことだなというふうに本当に感心したところでございます。

お話いただいたように、なかなか中山間地域で暮らしを成り立たせていくということが難しくなってきています。私が10年前、もっと前ですね20年近く前、例えば天満屋ストアで言えば、いかにそういったところに出店するか、出店したくても規制があって出店できない、採算は合うのはわかっているんだけどもと、そういう環境の中で仕事をしていったわけです。今は採算が合わないということで、何とかコストを工夫して、オペレーションを工夫して、お店を残せないか、無理ならば、さっきのような移動販売だとか、本当にいろんな工夫をして何とかお役に立てないかということをいろんな会社がいろんな技術を使って考えているんだろうと思います。

県庁にいますと、それぞれの工夫を総動員して、また我々が補助する場面もあろうかと思いますが、国に助けてもらうこともあろうかと思いますが、どういう形でそのそれぞれの地域の暮らしを守っていくのか、また、普段の暮らしを守るということも大事ですし、いざというときの、例えば病院に行かなければいけないときの足をどう確保するんだ、そういったこともこれまで以上に大事になってくる。我々自身も一生懸命考えますし、同じような悩みを抱えている鳥取県庁の皆さんともいろいろ情報共有、これは

いつも申し上げるんですけども、うまくいった情報というのは、正式ルートでも簡単に入ってくるんですけども、良かれと思ってやったがあんまりうまくいかなかったからちょっと別のことを考えているんだみたいな、広い意味での失敗事例については、仲のいいところとしかなかなか共有できないということで、本当にこれはぜひ、我々の思い違いも含めて共有をさせていただきたい。

場所によって状況が違うので、必ずこれがうまくいくということにならないだけに、いろんなことを試してみて、どういう特徴のあるところはどういうやり方がうまくいくのか、そういったことについてもご相談をさせていただきたいと思っています。

あと交通問題についても、なかなか悩ましいことがございます。JR西日本さんの問題が今顕在化している問題ですけども、それだけではなくて、これまで何とか採算ベースに乗っていたバスが採算に乗らなくなってくる、ちょっとした贅沢やいざというときにお願いしていたタクシーがどんどん台数が減っていく、いろいろな問題がございます。どういうふうに対応していくのか、我々としても少しずつ少しずつ、人生の節目ごとに少し固まって住んでいただくことでずいぶんいろんな問題が楽になるんじゃないかという思いはありますけれども、これもなかなか地区によってそれがじわっと進んでいるところもあれば、そうでないところもあつたりします。いろんなやり方を考えていきたい。

また、医療の問題も悩ましいところでありまして、岡山県も県全体で言えば、全国的には恵まれた地域ということに数字上は少なくともなるわけなんですけれども、県北地域になると、実際にはなかなか医師の確保が難しい、また看護師の確保はさらに厳しいという現状がございます。いろいろ地元市町村関係機関と連携を図ったりデジタル技術の活用などいろんなことをしているわけなんですけれども、そういったことについても連携をさせていただきたい、何かこれまで以上にできることがあるんじゃないかということを考えております。

また、我々小さな拠点、岡山県版で「生き活き拠点」という名前ですけれども、そういった拠点を作るとしては複数の集落が連携をして広域的な地域運営に移行する、これも「おかやま元気！集落」という名前をつけていますけれども、それぞれで厳しいときにはいかに連携して生活を守っていくかということ。また、この地域おこし協力隊をどう活用していくのかということについても、一生懸命頑張っているつもりであります。ワーケーション、二地域居住、農家民宿、もういろいろな今話題になっている、いろんな地域が取り組もうとしているところも全部総動員していつもなんですけれども、まだまだ足りていないなという思いがございます。一緒に取り組んでいきたいと思っております。

## 【観光連携の推進】

### ○伊原木知事

ではシナリオの方に戻らせていただきまして、次に観光連携の推進について、これも私の方からお話をさせていただきます。

今日湯郷温泉で会議を開催させていただいております。この両県ともにこの温泉文化、鳥取の梨、スイカ、岡山の桃、ブドウ、そういった共通のコンテンツがございます。また、我々は瀬戸内海、鳥取県さんは日本海と海に面して、北前船の寄港地である、いろんな共通点があるということでございます。

この「とっとり・おかやま新橋館」も共同で使っているいろいろ取り組んでいるわけでありまして、今ようやくコロナの影響から回復して、インバウンドが急速に回復しておりますけれども、ちょっと地方の場合、東京大阪と比べて少し回復が遅れているという現状がございます。ぜひもっともっと、外国人観

光客にそれぞれの地域に集まっていただくために協力をしたいと思っています。昨年度、一緒に作りました繁体字版ドライブマップ、これを改定した、また、香港でマップを活用した観光セミナーを共同開催させていただきました。

せっかくお越しいただいたわけなので、自分たちのところでクルッと小さく回って帰っていただく、別にそれはそれで一つのやり方なんですけれども、せっかくですから、ぐるっと広く回っていただくというのがいいんじゃないかと思います。特に、遠くから来れば来るほど、一点で帰る人がむしろ少ないわけですから、来られるお客様からして意味のあるぐらいのスケール、広さで提案をしたいと。今年度、香港からの誘客促進も一緒にさせていただきそうだとということで、今楽しみにしています。

我々の方からちょっとご紹介させていただきたいのが、来年になるんですけれども、2024年秋に県北を中心に「森の芸術祭 晴れの国・岡山」という国際芸術祭を開催させていただきます。この湯郷を含めた三つの温泉で、「美作三湯芸術温度」という、手作りの芸術祭を3年に1回、3回開催いたしました。非常に予算と比べて効果が大きかったわけなんですけれども、今回の森の芸術祭は、本格的な国際芸術祭になります。本当に気合が入っておりますので、ぜひ鳥取県さんも巻き込んで大きなムーブメントにしていきたいと思っています。それが来年。

また再来年にはご案内の通り、大阪・関西万博、また瀬戸内国際芸術祭が開催されるところでございます。このいろいろな大きなイベントごとに、ぜひこれも来られたお客様にとってちょうどいいエクスカージョンになったなあと、こっちの方に少し足を伸ばしてよかったなあとというふうに思っていただけのような企画を、共同で提案していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

## ○平井知事

ありがとうございました。素晴らしいご提案で、ぜひまた具体的にですね、また関係部局で話をさせていただいて、来年再来年、万博あるいは瀬戸内芸術祭に向けてですね、機運醸成を図っていただきたいと思います。

先程お話がありました医療等の中山間地の問題につきましては、これは真庭の方は特にそうなんですけど、私ども倉吉あたりと実は接してまして、ドクターヘリもカバーできるぐらいのところになります、鳥取県側からですね。実際には結構患者さんも行き来をされています。

こうしたことでやはり県境の山が邪魔しているようでいて、実はネットワークが、道路もできていて、命に関わることでありますので、ぜひ先程、こうした医療、医療資源これを充実していこうというのは大賛成でありまして、我々も一緒になってやっていければなと思っておりますので、どうかよろしくご指導いただければというふうに思います。

またタクシーだとかバスだとかも含めて後ほど交通ネットワークもあろうかと思いますが、この辺も非常に悩ましいところで、ぜひ一緒に解決策を探っていければと思います。

観光ですが、今日ここ美作三湯の一つ湯郷を自転車で回らせていただきました。大変なご配慮もいただいて、今日、徳持耕一郎さんという鳥取出身のアーティストも呼んでいただいたようでございまして、久しぶりに私も顔を合わさせていただきました。あの方は鉄の針金を使ってですね、それでジャズのいろんなシーンを線で表現するという独特のアートでございまして、横浜だとか、各地にそうしたコロニーのような形で非常に一つのテイストをもたらしてまして、この湯郷でもそうした意味で数々の

アーティストの姿が音楽を奏でるがごとく、彫刻としてある。本当にこうした町並みにフィットした芸術の姿というのがあって、これが今伊原木知事がおっしゃるように観光の大きな素材になっているなど本当に感心させていただきました。

そういう意味でアートがですね、これから繋がっていくわけでありまして、森の芸術祭を来年やるので、広域でどうかなというお話がございました。これぜひ検討させていただきたいなと思います。

実は私ども倉吉という街ですね、ここが恥ずかしながら全国でも一番遅いタイミングで県立の美術館を今作ろうということでありまして、来年度はそのプレの年になります。

いろいろと地元の方でもうそうしたアートを使ったまちづくりだとか周遊とかを考えたいというふうに言っていて、もし可能であればですね、そういう周遊ルートを繋げながら、こうしたアートで岡山の県北とそれから鳥取県とを結びながら集客を図っていくということはあるかもしれないなと思って伺っておりました。ぜひまたちょっと話し合いも具体的にさせていただければありがたいと思います。

また、関西の万博と瀬戸内芸術祭が同じ年にあるということでありまして、これは周遊させない手はないと思います。先程の私どもの美術館もその年に開館をしまして、初年度はゲゲゲの鬼太郎の水木しげる先生の特別展であるとかですね、日本ではちょっとバズりましたけれども、「ブリロの箱」を素材にして展示するということでもあります。ブリロの箱を作って見れますので、参加していただければと思うんですが。そういういろいろとちょうど売り出しのオープニングの年でありますので、こういうのも含めて、アートも一つの手がかりにしながら、巡ることもあり得るのではないかなと思います。

県内でも鳥の芸術祭などですね、これは演劇祭でございますが、そういうものが定着をしていたりしまして、いろいろと集客力もあるものもございまして、その辺の共有化をもっと進めれば、面をたどっていただいて、特に万博の年や、あるいは来年のこの森の美術展をここで行うときに良いのではないかなと思います。

また温泉も非常にいい資源がちょうどこの山を挟んであるところでございまして、今伊原木知事の方で繁体字によるマップの作成など共同して進めていただきました。ぜひインバウンドがようやく帰ってきましたので、こうした観光素材だとか、ルート作りだとか、プロモーションを一緒にできればなと思います。今月は台湾に伊原木知事と一緒に伺いをさせていただきますので、またそのときもご指導いただければなと思います。

実は昨日、EGLツアーズの袁社長と米子の皆生温泉で懇親会と申しますか、協議をさせていただいて、これからもっともっとインバウンドを連れてきますよと。最初はなかなか大変だったんですけども、8月は米子のおきに出ていますチャーターフライトがですね、90%から95%ぐらいまで搭乗率が上がってきているということです。実はこれ、訳がありまして、米子におりますけども、岡山広島を回ってまた帰ってきて乗って帰るというパターンなんです。

袁社長もぜひ伊原木知事にもよろしくお伝えくださいとおっしゃっていて、これほどさように、海外の方々は欲張っているなとこ回りたい。その意味では岡山鳥取の距離感というのはある意味ケースとして悪くない、日本人が考える以上に近いと思っておられると思います。

ですからこうした温泉文化だとかですね、そうした外国人向けのツアー一造成も含めまして、共同戦線を張ればなと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げたいと思います。

## ○伊原木知事

ありがとうございます。EGLツアーズの袁社長、すごい方ですよね。あの方はどんな仕事をされても必ず成功されるんだらうなっていうすごい方で、ぜひまたご一緒する楽しみにしています。芸術のお話をいただきました。私、過去を振り返ると反省するばかりなんですけれども、ベネッセの福武会長が初めて直島で瀬戸内国際芸術祭をされるっていうことを、いつ私個人的に教えていただいたのか、そういうお話をお伺いしたときに、ちょっとびっくりしました。

あれだけのコレクション、もうすごいコレクションらしいっていうのは薄々私も何度も教えていただいてわかっていたんですけども、せっかくだったらもう少し行きやすいところに置いた方が、5万人の人に見てもらうよりは10万人の人に見てもらった方がいいんだらうしということで、わざわざ何か嫌がらせみたいに、交通の不便の悪いところでそんなすごいものを、というふうに思った多くの岡山の人一人だったわけですけれども、実際にはあそこに行くまでもしくはあそこに行くことも含めて素敵な体験ということで、東京大阪の人から非常に評価が高く、外国から来られた方の評価が非常に高いということを考えてみても、県北、必ずしもアクセスが良いとは言えないところと美術芸術、意外と相性がいいかもしれない、これは本当にやり方次第、工夫次第だなというふうに思っているところでございます。

ぜひ、ああ行ってよかったな、足を伸ばしてよかったなというふうに思えるような形を探っていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

## 【交通ネットワークの利用促進と維持・存続】

### ○伊原木知事

では最後の項目になります、交通ネットワークの利用促進と維持・存続について、平井知事の方からお願いいたします。

### ○平井知事

これにつきましては、岡山県さんにおきましても、非常に今ショーアップされた課題になってきたんじゃないかと思えます。やはり私たち中国山地を抱えながらですね、鉄道の問題、JRのことについては、協力をしながらやっていく必要が非常に高まったんじゃないかなと思えます。

今、国土交通大臣の斉藤大臣、割と鉄道オタクで有名な方ですけども、今この鉄道問題にも真剣に取り組まれていますし、私自身が陳情させていただくときも、いろいろと地域の事情に即した対応を考えていきますというお話ではあるんですけども。

ただ法律が改正されて、JRとか鉄道会社側の方で、いわば地域に対して議論を提起しやすいような形になってきていると思います。

それ自体は悪いことではないのではないかなと思うんですが、ただやはり我々地域のローカル線を預かる者としてですね、そもそもJRが生まれたときに、JR西日本、JR東日本、JR東海、こういうところは資産性のある新幹線を与えてですね、また、大都市における通勤交通、電車網を与えたわけでありまして、そこに収益源があって、ローカル線も一緒に経営するという、そういう制度設計のもとに、本来はできていたものであります。

それがコロナで確かに経営が傾いたわけでありまして、それは我々も一緒になって何とか応援しなきゃいけないと思うんですけども、ただ今またコロナから回復して、決算も良くなってきている中、どこまでそうしたローカル線の問題を本当に議論しなきゃいけないのかっていうのは、やはりもう一度冷静に考える必要があるのではないかと思います。

特にウクライナの戦争などを見ていると、日露戦争のときに日本が国有鉄道法というものを作って、鉄道を国有化していったわけでありまして。それはそうした戦時において大量輸送ができる鉄道の存在というのが大きいということで、民間中心に建設を進めていた部分すら国有化をしていったという実情があります。

現に今戦争ウクライナを見ていると、避難する、あるいは物資を運ぶ、そういうときに、鉄道の鉄道があるからこそできるわけでありまして、それを閉じてしまったら、もう二度とその動脈は断たれてしまう、ということにもなるわけでありまして、やはり国家的資産として鉄道ネットワークを考えるべきという面があるのではないかと。

また、今現状でローカル交通を見ても、利用されているのは病院に行くとか、学校に通うとか、そうしたいわば交通弱者、他に交通手段がない方々に対する社会政策のようなものになってきています。海外でも、そうした鉄道については公共交通を守ることが社会政策であるとして、税金を投入するというのがなされているわけでありまして、例えばアメリカもアムトラック（事務局注：全米鉄道旅客公社）というのがございますが、あれも連邦政府がしっかり支援をしているわけでありまして。日本だけがなぜか全部採算性のもとに、難しければ整理したらみたいな世論が湧いてくるというところがございます。もっと冷静な議論をしながら、私達は取り組んでいく必要があるのではないかと思います。

そういう意味で、これも反発する向きは正直世論としてはあるのかもしれませんが、やはり鉄道の利用促進という基本に立ち返ってやっていくのであれば、広域的な鉄道についてですね、岡山県さんと私ども鳥取県、あるいは周りの県も巻き込んで、スクラムを組んでいったらどうかなということがあります。

例えば先般5月に「みまさかスローライフ号」という列車が因美線でやってきました。私も那岐の駅で、鳥取側の方の駅で迎えたわけでありまして。そのときにたくさんのお客さんが乗ってくるんですね。やはりファンがいるし、需要というのはこういうところに隠れているんじゃないかと思います。

この夏休みも、私もJR西日本米子支社の支社長さんをお願いしてですね、「あめつち」という列車を因美線で走ってもらうことになりました。これは「SAKU美SAKU楽」と接続してまして、岡山から鳥取まで往復しようと思ったらできますし、津山で折り返すこともできますし、そういうようなことで今企画が走っております。

こういうのをどんどんやって、JRさんに儲けてもらって、我々もこうやれば鉄道というのは使われるんだということを世間にも見てもらう必要があるのではないかなというふうに思います。

今、兵庫がDESTINATIONキャンペーンをやっているんで、その関連で岡山鳥取合わせて非常に議論が起きているローカル線でスタンプラリーのように動いてもらう企画も始まったところです。

我々も単にじっとしているだけでもいけないのかなと思いますので、そうした需要創造における連携事業ですね、ぜひこれからまた強化していただければありがたいかなと思います。

また、鉄道も災害に弱いという面があって、全国で今問題になっていて、知事会でも山梨大会で議論がありました。災害が起きた途端に廃線になってしまうというおそれが出てきているわけであり。そういう意味で、今回井原鉄道さんと私も智頭急行が協定を結んでいただいたわけですが、こういうような、いろいろと災害対策なども含めてですね、我々地域で連帯できないかなということでもあります。

道路につきましては、志戸坂峠道路という鳥取自動車道の一部的なところを推進していただくようにご協力をいただければと思いますし、また、北条湯原道路、これは岡山側でも現道改良の手法により進めていただきまして誠にありがとうございました。鳥取県側はどちらかというと自動車専用道路の形態で進めております。もしご考慮いただけるのであれば、地元でちょっと意見もありまして、「北条倉吉道路」というような呼称で、鳥取県側の方の地元住民への周知をしたいという意見もございます。

いずれにしてもこういうルートをですね、いろいろと今後協力して整備していければと思いますし、雪のときに我々雪国の方からは非常に有効なのは黒尾峠のところでありまして、黒尾峠の防災対策なども、国直轄で今いろいろと検討しようかという動きもありますので、こうしたことに対しましてもご理解をいただければというふうに思います。

あわせて、米子自動車道の4車線化に向けまして、鳥取県側でも一部まだ残っているところがございます。岡山道もあわせて陰陽連絡の路線として、4車線化に向けて、NEXCOや国交省に共同して働きかけていければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

## ○伊原木知事

どうもありがとうございました。鉄道と道路について、特に鉄道については我々の思いを、もうおっしゃっていただいたところでございます。

それにあえて付け加えることだけ申し上げますと、とにかく我々が一番気にしているのは、地域の住民の生活をどう守るか、この足をどう確保するかということでございます。実際どういう使われ方をしているのか、もしJRさんが思われている、JRさんにとっての改善策が起きた場合、いろんな可能性があるんでしょうけれども、それがどういうふうに地元の皆さんの生活に影響を及ぼすのか、そういったことは当然我々とすれば、非常に気になるところでございます。

ここで鉄道と道路、本当に当たり前の話なんですけれども、正確に大きく間違いがあるということでございます。例えば車中心のロサンゼルスと、それから地下鉄中心の、東京なのかニューヨークなのかどこでもいいんですけれども、もしくはサンフランシスコもずいぶん違う街ですけれども、この車中心というのは、中ぐらいの町までだったらそれはそれで回りますけれども、大きくなればなるほど、全く回らなくなってくる。道路って車線をどんどんどんどん増やして、場合によっては片側6車線道路とか7車線道路というものもありますけれども、そういうことで、キャパシティを20倍30倍にはできないのが道路であります。ですから、なかなか大都市での運用は本当に困難を極めるわけでありまして、それと比べると鉄道というのは、大量輸送に非常に向いておりまして、それを一番体現しているのが東海道・山陽新幹線ということになるかと思っておりますけれども、ものすごい数の人を、なんなくすつと通してしまふ。

あともう一つは、公共交通全般で、乗れば乗るほど良くなると、採算も良くなる、タイヤもどんどん充実してきて利便性も良くなるということがございます。道路の方はその逆ですけれども、道路の方は

乗れば乗るほど渋滞をしてくる。道路の強みは、あまり使用する量がなくても、それはそれで回ると、鉄道の方は量が少なからうが何だろが、線路の維持にはかなり固定的なコストがかかりますので、乗客が減ると非常に厳しくなる、そこで維持がぬるいとすぐ事故に繋がるということがございます。

それぞれの強み弱みをどういうふうに生かして、最終的には地域の皆さんの暮らしをどう作り上げていくのか、守っていくのかということについて考えなければいけないということなんだろうと思っています。

とりあえずは、せっきやくそこに鉄道がある、使われている、より誰にとってもいいように、利用促進をするというのは、我々が考える一番自然な方策ということになります。JRさんはJRさんで思いがあるということは我々なりに理解しているつもりでございます。これからも対話もしくはこの鳥取県さんなどいろいろな主体と協力しながら利用促進に努めていきたいと思っていますところでございます。

道路も言われた通り、道路については何とか岡山米子線を4車線化してほしい、今着々と、この20年間ほとんど何も動かなかったところが、この数年間で、急速に事態が好転しています。もうほぼ岡山側はめどが立ちました。せっきやくこれも繋がって初めて意味がある道路網ですので、鳥取県側の4車線化についても我々応援をさせていただきたいと思っておりますし、それぞれの峠のこと、雪の対応についても、これもとにかく道路というのはどこかで止まるとみんな困るわけでありまして。ぜひ連絡を密にしていきたいと思っています。先日も国交省、中国地整の皆様方と年1回の懇談会をして、その連携を密にすることについて話し合いをしたところでございます。ぜひ使われている方から見て、全て防ぐのは無理にしても、この的確な対応でいろいろな渋滞ですとか、待ち時間が最小限になったなどというふうには極力評価していただけるような対応を、日頃から工夫していきたいと思っていますところでございます。

北条湯原道路、名前が一部変わるということでございますけれども、名前が変わってもさらに親しまれるように、我々としても、名前が変わって君誰だっけということのないように努めたいと思っております。

何にしても、それぞれの行き来がしやすくなる、これはどちらにとっても良いことだと思いますので、ぜひ観光を中心に、使って改善をしていくいい地域にしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

## <合意事項>

### ○伊原木知事

以上で意見交換が終わったということでございます。合意事項について取りまとめさせていただいておりますので、私の方で読み上げさせていただきたいと思っております。

「人口減少に直面する両県の連携」についてでございますが、婚活イベントの合同開催などを引き続き連携して行うほか、中山間地域での買物をはじめとした生活環境の維持・確保について、国への働きかけ等に連携して取組ます。

次に、「アフターコロナにおける観光連携の推進」についてでございますが、大阪・関西万博をはじめとして、国内外の往来が活発化する機会を最大限生かせるよう、より一層連携を強化し、両県への観光誘客につなげていきます。

最後に、「交通ネットワークの利用促進と維持・存続」については、観光振興や生活環境の基盤となる鉄道ネットワークの維持・活性化や、高規格道路ネットワークの早期整備に向けて、引き続き連携して利用促進に取り組むとともに、国等へ働きかけていきます。以上になります。

(両県知事で合意事項のパネルを持って記念撮影)

## <閉会・記者会見>

### ○笠原岡山県総合施策局長

それでは以上で会議は終了させていただきまして、引き続きこのまま記者会見をさせていただきます。お時間の都合がありますので、申し訳ございませんが(14時)55分までとさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

### ○OHK

OHKの奥原と申します。伊原木知事に伺いたいんですけども、観光の連携について話がありましたが、今後この隣接県ということを生かして、どのような両県の魅力を生かした岡山県内の観光客誘致に生かしていくか改めて教えてください。

### ○伊原木知事

先程平井知事のお話がありましたように、今でも岡山空港で入られたお客様が鳥取の方に向かわれて梨狩りを楽しんだりとか冬場の蟹を楽しんだりということがございます。隣なのに海が違うということで、結構食文化が違うですとか、意外と得意な、こっちが桃であちらが梨とか、食べ物が違うということがあるものですから、お互いクロスするような、行って帰ってくるようなルートがこれまでも非常に好評だったという現実がございます。

今我々自身も、台北線が戻って前に就航になり、先日は上海便が3年半ぶりに復活をしたということがございます。これからどんどんそういった便を戻していく中で、岡山空港に来られる方にとっての満足度を上げるためにも、ぜひいろいろな周遊ルートを提案したいと思っておりますし、そのときに県境が障害になって、岡山県内はなんかいろいろあるんだけど、そこを出た途端に案内がよくわかんないというのは本当に申し訳ない。繁体字のマップを一緒に作ったりというのはそういうことと考えています。

### ○NHK

NHKの山田と申します。伊原木知事に質問があります。最初の少子化対策のところでは鳥取県さんの素晴らしい例として合計特殊出生率が上がっている、中でも晩婚化のカップルへの対応ですとか移住者に向けた対応ですとか、すごく私も勉強になるところがありまして、これから詰めていかれるところと思うんですけども、そうした好事例を踏まえた上で、岡山県としてどういうふうにしていきたいか伺ってもよろしいですか。

### ○伊原木知事

そもそも鳥取県さんの今回の実績は非常に全国的にもすごい実績でありまして、両県知事会がなくても、我々自身必死というか、もうとにかく何でもやろうということですので、教えていただいて、さあどうするかという、この優良事例の全国の中の、いくつかあるうちの一つなんですけれども、とにかくこのうまくいっている事例については我々とすれば真剣に検討したい。当然ながら我々もリソースは限られています。成功事例を全部我々ですることは無理なんですけれども、その費用対効果ですとか、効果が発現するスピードなどいろいろなことを考慮しながらまた検討していきたいと思っています。

### ○日本海新聞

日本海新聞の福谷と申します。平井知事に伺いたいと思います。

先程伊原木知事のお話の中で、アートを素材にした観光振興、地域振興、2025年に県立美術館の開館を控える鳥取県にとっても大変に参考になるお話だったと思います。改めて伊原木知事のお話をどのように受け止められましたでしょうか。

### ○平井知事

2025年は瀬戸内の美術展でもございますし、また大阪・関西万博そして鳥取県では県立美術館開館に伴うオープニング行事が予定をされるところであります。

もし岡山県さんともですね話をさせていただいて、直島ですとかいろいろとアートのポイントというのがあると思います。また来年はプレで我々もいろいろと今後考えるところだと思うんですが、ちょうどそのときに、ここ県北の方ですね、岡山県でも森をモチーフにしたアートのフェスティバルをされると。この辺はやはりもし協力関係を持てるのであれば、周遊していただくとか、お互いに紹介し合うとかしてですね、特に外国人、あるいは遠方からこれをお客様に巡り歩いていただく、そういうチャンスかなというふうに思います。

我々鳥取側から拝見していても瀬戸内のフェスティバルなどはですね、これは世界的な誘客を毎度毎度誇っておられる一大祭典になっています。そうしたところと、我々もいわば見習いながらですね、そういうアートをモチーフにしたそういう地域振興、観光振興、我々も舞台の一つとして取り上げていただければありがたいかなと思います。

今後ですね、今日をきっかけにしまして、どういう連帯が図られるのか相談をさせていただければと思っています。

### ○笠原岡山県総合施策局長

ありがとうございます。それでは大変申し訳ございません、予定の時間となりましたので、これをもって記者会見を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

なお先程私発表しました合意事項につきましては、入口の受付の机に置いておりますので、お帰りの際ご自由にお取りいただければと思います。